

主な記事

ソ連の新動向と日ソ交渉について……………1頁

東信千曲教育研究会の創立について……………4頁

文献抄録……………5頁

サロソ……………6頁

千曲會報

昭和31年10月1日発行

長野県七田市常八

信州大学繊維学部内

編集兼発行人 小山長雄

信州大学繊維学部内

発行所 社団法人千曲会

昭和31年6月18日第3種郵便物認可 毎月1日発行 定価1部15円

ソ連の新動向と日ソ交渉について

……東信千曲教育研究会の際の講演……

8月10日繊維学部講堂に於て行わる

お茶の水女子大学長 蠟山政道

現在国民の関心を払っている問題は少なからずあるが、それは目下モスコーにおいて交渉中の日ソ交渉であると思う。この問題を中心に我々国民として どの様な角度から、又どの様な問題点を中心にして成行きを見たらよいか？ この問題について、たまたまこの2月にソ同盟共産党が、20回党大会を開いた際に世界に色々波紋を投じたがその報告では現在のソ連首脳部の考えている事がいつも論議されているのである。特にスターリンの評価と云う事が、直接には日ソ交渉の問題とは関係ないかも知れないが、少くともその背景にはソ連の新動向を理解する為の一助になることがあると思う。この二つの問題を結び付けて私の考えを述べ参考供にしたいと思う。



私はソ交渉について二つの疑問がある。それを端的に問題として、皆様の前に提起したい。

第一はエトロフ、クナシリ両島の帰属問題であり、日本の世論がロンドン交渉でその両島問題が行き詰り、一時休止の止むなきに至り、再び今回開かれる事になった。この南千島の領土問題をなぜ頑強に固執するのか？ 日本世論のほぼ一致している点は、この南千島の返還問題である。つまり、この二つの島を還してもらひたい、ソ連はこれを領有する理由がないかと云う点については、殆んど日本国民の世論であると云つてよいと思う。今重光全権がその世論を背景にロンドン交渉以来、その交渉に当たっているが、依然として少しもロンドン交渉以上に進んでいない。一切の日本の主張を退りさせているのである。これはなぜか、なぜソ連はそう云う頑強な態度を示すのかと云う問題、これが私の一つの疑問であり問題点である。今一つの問題は、日ソ交渉の経過を良く見ると、どつちかと云えばソ連から持ち掛けたものである。しかもそれが堂々と政府を通じてではなく、むしろ個人としての交渉を通ずると云う、例の処置をとつているのである。なぜソ連はその様な手段をとつて迄も、国交回復をしたいと思つているのか、ソ連側の動機いかんと云う問題である。殊にこの春河野農相がモスコーに行つた時に魚業協定の問題を本決りにするのは、日ソ交渉の回復後にやると云つた。しかも日ソ交渉を開始する期限を7月31日と云うデットラインを決めて要求した訳である。河野農相はこれを承知して帰つて来た。勿論そうしなければ魚業協定の暫定協定すら出来ず行き詰りを来たす事になる。と云う訳でこの点についてもなぜ7月末と云う線に限つて早く再会しろと云うのか、その動機いかんと云う問題は、必ずしも明白でないのである。この二つの疑問を一応頭において、我々は日ソ交渉に望まなければ日ソ交渉に対して、正しい解釈は見出せないと思ふ。この点各々の専門家の意見をたずねても明確な答を得られない。

しかしこの二つの問題に対する一定の見解をもたずには今後の交渉の成行き、又その結果を予想する事は出来ない。又仮に何らかの妥協がみられたとしてもその後の問題に対する我々の見解を正しく定める訳には行かない。この点の問題を根本的に究明する必要がある。

南千島の問題についてはソ連は全く我々の予想以上に強固に日本の主張を避けている。今日の新聞に依ると過去三回に渉る重光全権の主張は極めて正当であつて誰が見ても了解の出来る主張であつた。特に法律上から考えて殆んど一分の隙もないしつかりした議論であると思う。それにもかゝらずそれらの主張が少しもソ連の政府を動かす事が出来なかつた。日本の主張を反対する所のシエビーロフ全権の意見は全く論理上問題にならない、とうてい承服し難いものである。そして、少くとも領土に関する限り正面衝突である。

その様な状況に立至つてどの様な打解策を用いるか国民として関心をもたざるを得ない。おそらく此の領土問題に対する見通しはソ連の云う事を聞いてそのまま引きがるか或いはこれを拒否して、決裂状態に入るか、第三の転換政策があるかどうかと云う瀬戸際になつて来た。従つてこれから期待しているブルガーニン首相との会談に於て何らかの政治的取決めがあるだろうか。

恐らくソ連政府の状態から判断しても又シエ外相の地位から見てブルガーニン首相自身の意見はそれほど有力なもの期待出来ない。シエ外相はプラウダの主筆をしていてフルチヨフ第一書記の予分である。この様な背景をもつシエ外相の考えていない事がブル首相と重光全権の間に取決めがおこるとは考えられない。この様な次第で現内閣にとつては非常に重要な問題点にうちあたつたと思う。ここで私は外交には色々の転換があり、又含みがあるから現交渉の将来を予断する訳には行かぬ。又日本が置かれている国際的地位の問題であり国家的超党派の問題であり吾々の主張即ち政府(全権)の主張が通らない事は国民の主張が通らなかつたと云う事である。吾々の正しい主張を受入れない相手をどう考えるかと云う問題であり、それは吾々が深く昨日明日ではなく将来迄考えて行かねばならない意義をもつ問題であると思ふ。だから根本的にこの様な状態になつた背景に何があるのか、即ち重光シエ両全権が公の席で主張した限りでは日本のが正しいのにどうして受入れられないのかと云う事実を考えて見るとソ連が主張していない問題が介在しているのではないかと。それがむしろ大きな問題ではないかと考える。そこでソ連の根本的動向を考え、特にソ連の外交の基調はなにか、単に日本のみでなく、全世界に向つて持つている外交政策における主

張はどう云う内容をもつるか、検討して見たいと思う。

ソ連の外交政策は周知の通り10月革命以来、幾變遷を重ねて来たもので、あたかも一つの山の頂上に向つて走つてゐる螺旋状の道の如きものである。特に吾々がソ連外交政策を検討して来て非常に重要な変化を見出すのは、ソ連の国内状況と世界状況とが非常に密接な関係があつて、世界状況の変遷は、やがて国内状況の変遷となり、国内状況の変遷は、同時に世界政策となる様に、ソ連の内外政策は一本の糸の如く織り混んでゐるのである。しかも重大な変化、又は段階があつたと云つてよいと思う。

その第一は、ソ連は先づ革命の原因が世界の資本主義体勢に発生している混乱を利用して、つまり一国内の革命に導入すると云うレーニン原理を採用する。それがやがて世界戦が發展している途上において、いわゆる内乱的革命が起るだろうと云う予想の基に旧ロシア地帯に先づ革命の「のろし」が上つた、と云う世界革命の一環としてなされた段階である。そしてその間経済生産力は減退するので国民生活は非常な困窮に陥入る。ソ連国家が建設される為、あるいは革命が譲受する迄には相当な困難を経験した時である。このレーニンの末年において国内状況は非常な困窮を続けている為、社会主義革命のテンポをゆるめねばならない、と云う意味で新経済政策を採用したのである。と同時に国内状況ばかりでなく国際状況も非常に變化した。多くの期待された国々における社会主義革命は成功しなかつた。ようやく戦後の秩序が回復してもはや革命の望みなしと云う断定を下さねばならなかつたので、ここに一つの転期が生じた。この時にソ連首脳部間に三つの意見が対立した。その一つにはトロツキーの主張であり、ソ連の革命は、世界革命の中心とされねばならぬと云う主張である。これに対してスターリンは最早世界革命を基とすべき望みはない、今ここで一時退いて、ソ連だけの問題として、社会を革命の基礎工事の為に努力すべきと考え、一國の社会主義建設の理論を出したのである。ブルガーニンはその中間の説であつた。そして最後の勝利者はスターリンであり、ここからスターリン時代が展開した。と同時に国際外交においては、シチエーリン外交を捨ててイソビノフ強張外交に轉換する。即ちあれ程その成立を非難した、ジュネーヴにおける国際連盟に対してもいわばこれと協力する態勢を示した。これが1925~28年における、ソ連の變化である。更に第二段階の變化、即ちこれが中間安定期である。そして世界が安定したとなるとソ連は実力、武力による外交から転じて平和外交に移る。所がこの第二期がやがて世界恐慌と共に一つの転期に見舞われる。ここに資本主義諸國の行政が非常に混乱を呈する事になり、この1929~36年頃一つの大きな發展が見られる、それが5カ年計画の開始である。そして資本主義が最後のあがきとして、反動的なファシズム勢力を形成した時である。このファシズムの打倒に、又攻撃にソ連を守らねばならぬと云う国民的な思想動員の出来る状況が發展した訳である。そこに今迄と違つた、そしてある意味においてスターリン主張の先見の明のほり得る様な国内建設の理由が、国民全体に解る状況が、ソ連に發展して来たと同時に資本主義諸國にも色々な變化が出て来る。

こう云う時に吾々はソ連の外交を、殊に平和攻勢をとる時の動機と云うものを良く見なければならぬと思う。日本の関係から見ても、丁度この時は満洲事變の直后であつた。ソ連にとつて今ようやく5カ年計画の終つた時であるとも云う時に、強力な日本関東軍に対抗する事は出来ないと考え、ひた

すら満洲における日本の進出政策に妥協する。しかしソ連は同時に中国共産党と国民党の妥協を計つてゐるのである。ソ連としては、表面は日本と妥協しつつ日本が世界の袋たきになる時期を待つていたのである。こう云う様な賢明な政策をとつていたのが、丁度第三期に當る。この時期はやがて第二次世界大戦と發展した。その間勿論スターリンは一次的に連合國の足波の揃う迄、即ち英、米がはつきりとした同盟をソ連と結ぶ事の可能性を見極める迄、一時独ソ協定を結ぶ。今迄は敵とし、極めてその危険を説いているヒットラーと協定を結んだのであるから、連合國も世界も驚くのは当然であるが、スターリンから見れば連合國が立上りが遅い場合によつては連合國はヒットラーと妥協するのではないかと云う様な恐れさえある時に、ソ連から見れば敵侵出を一時的なりとも緩和する為、あらゆる手段、協定を結ぶ事も決して道理に合はない事はない。それは時をかせぐ為であつて、やかて連合國が事を決めて立上つた時は、その協定を破棄したのである。そう云う訳でソ連の外交は決して訳けの解らぬ外交ではないと私は思う。丁度この点は日本の場合でも同じである。終戦の年の4月中に日ソ中立条約を続けるか否かが論議された時、日本側はその点について、はつきりとしたソ連の考え方を把握出来ず、政府は続くものと考へてゐた。所がヤルタ協定では、ソ連はこの夏過ぎには日本を攻撃すると約束してゐる。それが8月8日の問題でははつきり解つた訳である。しかもその守り方が、おかしく日本兵力が少しでも残つてゐる時は手を出さず、沖縄が陥ち、日本兵力が殆んどなくなつた後に殊に米國が原子爆弾を使った事実を見極めた後に参戦してゐる、と云う事を我々は考へねばならない。ソ連の頃の中は日本ではなく当時から問題は米國であつた、故に米國のもつてゐる新兵器が何んであるか見極める迄は軽々しく動かなかつたのである。我々はあまりにも単純過ぎ、事柄を見る目が乏しい様に思う。我々はこれを将来に繰り返してはならない。ソ連はソ連なりの一つの立場があり、我々から見ると理解しがたく、複雑であると、云うに過ぎない。従つて戦后においてどうすべきか遠大なる計画をもつてゐた。即ちヤルタにおいて、3月にヒットラー、2、3ヶ月後に日本がまいると考へてゐた。このヤルタ會議において決められた事は我々に非常に關係がある。ヤルタ協定は戦争の方法、戦争を終らす迄の方策を記したものである。しかもある所を占領すると云う様な事は自分で主張してゐるが、ただその場合占領とは、決して永久に占領する意味ではないのである。その点スターリンの野心をルーズベルトは多少看破し、注意をしてゐる。所が千島の問題については、連合國もそこまで注意はしなかつた。米國もどの範囲を千島と云うか。齒舞、色丹と云う小島は千島でなく、北海道の一地域である事を知らない。まして南千島は、かつて日本の領土以外であつた時は一度もなかつたし、又歴史に日本の領土であるとも云う様な細い事は知らない。だからそれをヤルタ協定で連合國が、証認してゐる、と云う事を今度モスコでシエビロフはしきりと云つてゐる。それに対し重光全權が「そんな事はない」と云う事を主張しても、ソ連は国際協定で千島は全部入つてゐると主張を繰り返してゐるのである。そして最後の戦後の段階が来る。それがやがて冷い戦争、即ち二國間の対立と云う問題を起す事になり、この冷戦は局地的には熱い戦争、即ち朝鮮戦争となつて現れた。これでスターリン時代は終りを告げ

た。そしてスターリン死后世界状況は更に一転換をする。

一方戦争末期に米国が投下した原爆は今や10年を経て、ソ連も又有力な原子兵器の所有国となつて、今や二つの陣営はそれぞれこの原子兵器を所有し、その力が均衡するに至つたので最早戦争を目的として考える事は、その結果は人類の破滅と云う事を悟り得なくなつたのである。そこに一つの政策の転換が来た、それがジュネーブ会議を契期として世界にいつも平和的共存でなくも、競争的共存の地帯を生み出したのである。この様な段階においてソ連の外交は一変した。その外交は戦後のスターリン時代と異り、非常に妥協的、友和的な外交となる訳である。この様な幾変遷を経たソ連外交も一路目指方向がある。その方向を外交政策の上で考えると二つの点に要約する事が出来ると思う。

第一の点はソ連がイデオロギーの異なる資本主義、即ち諸国から囲まれていくかも知れないと云う恐怖心である。それは歴史的に裏付けられると思う。過去にポーランド、ナポレオン最近にはナチスの侵入を受けている。その様にソ連は歴史的に外国と「すり」の合はない事を知っている。従つて包囲政策に対する対抗策、そう云う一大基調に向つてソ連の外交政策は進んで来たと思う。もう一つの点はこの包囲政策を破壊して行く為には、資本主義諸国間における「仲たがい」を助長する、又中立的な傾向をその間に作り上げて行くと云う政策になるのである。

この見解が依然として今日ソ連の幾変遷をした外交政策をずっと一本の全線の如く貫ぬいている所の基調であり、根本政策と考えられるのである。その根本方針に変化はないかと云うとあると思う。それがどう云う結果によるか、そ

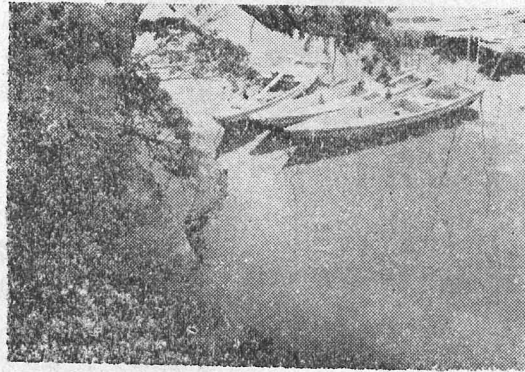
それはソ連の実力が増大した事である。包囲政策に対抗する自信を持った所の事実である。そして資本主義諸国の「仲たがい」を助長する見通しがある程度付いて来た。歐洲はだめ、見込のあるのは近東とアジアにおける平和地域の発展である。この地域の状況は、ソ連にとって最大の感心事だと思ふ。ここに緊張は尚解けない。しかしソ連のここ迄増大した実力をもつてし、この近東、更に中共を中心とするアジア政策においてある一定の自信を持つに至つたと思ふ。この様な状況を我々は眼中において、最初の疑問を解ねばならないと思ふ、なぜ千島の如き小島を固執するのか、ソ連にとっては経済的価値でなく、問題は近東における戦略的問題である。米国の関係においてソ連が考えている唯一の問題は、この戦略の問題であり、原子時代に於ける、ソの戦策地点としては一島と云えども、それは重大な価値を持つている。ましてソ連はシベリヤを考え、第6次5カ年計画はソ連にとって飛躍的發展をしなければならぬ。今迄は米国に追い付く事を考えていたが、今や特定の生産力が米国を越えようとしている。そう云う状態になつて来たから当面の目標は、米国を追い越す迄安心出来ないと考えている事である。ここに米ソの緊張は解けない。この意味で米国が日本に基地を持ち、沖繩

を持つている限り、どんな小島といえとも手放す道理がないと思ふ。だから日本外交が精意をかけ、正論を発しても駄目なのである。そこには日本が問題にしない問題がある。それは米ソ関係である。米国との関係をどうしてくれるんだ、と云うのがソ連の云々分であると思ふ。この点について日本の方針は未だ決つていないのである。

日本が本当にソ連の味方であると思ふ事を示さない限り、特にソ連に対する為の米の基地が於かされている現在では法律論でも歴史論でも駄目である。第6次5カ年計画はシベリアの開発を重点としている。日米安全条約を結んでいる日本が千島をよこせと云うのはおかしいとフルチヨブも云つている。米ソが緊張している事実を見逃してはいけない。世界平和の為に日本が何をしようとしているか聞き度いとソ連は云うだろう。

日本は眼を大きく開いて、世界に於ける日本の立場で交渉すべきではないか。

第二の疑問は日本の世論に反対して日本の要求を入れないソ連が何故、日ソ交渉を急ぐのかと云う事である。これは一見矛盾に見えるが、これには裏がある。私はこの裏について



入 江

信大光画クラブ 坂口育三

考えて見るに、それは国連加入の問題である。日本の国連加入は世界の世論であるのに、昨年ソ連は日本とモンゴル共和国とをさしちがいにした。

モンゴルを国府が反対したのでソ連は日本に拒否権を使つた。これにはさすがのソ連も良心がとがめたに違いない。

それで何とかして日本の国連加入を妨げない条件を作り出すのがソ連の考である。所がソ連はそれを条件付賛成ならよいとしている。私の考えは、ソ連は中共問題を出そうとしていると思ふ。中共

の国連加入は、世界世論が相当賛成している。中共の国連加入に役立つなら日本の加入賛成となると思ふ。そこでその条件は中共承認を何らかの形で結び付けようとしていると思われる。この辺の事は良知出来ない。中共加入を当り前とするのはソ連としては宣伝外交 100%である。それこそ平和攻勢の最大の眼目の一つと考える。それが、ソ連が大体において条件を結んで日本との国交回復を急ぐ理由と思ふ。その時期はこの秋にあると思ふ。そしてソ連の考えはすでに出来上つているのである。

交渉は最後の段階に来ている。即ち今の条件で妥決するか決裂するか、或いはアデナウアー方式の如き中間をとるかの3つである。今こそ独立を完成した日本は世界の一国として世界外交に仲間入りをする心がまえで外交に望まなければならない。単なる政党間の争いや感情はきつぱりと棄てて11年目の敗戦記念日を迎えた今日、新たなる覚悟を必要とする。

私が一人の学究としてロシアの新動向とそれを背景とする日ソ交渉の問題点を申し多少とも御参考に供し度いと考へる。

(これは講演要旨であつて文責は編集部記者にある)

東信千曲教育研究会

の創立について

7月7日、7月17日の両日にわたり母校千曲会館に於て、同窓教員の研究と親睦を目的とした研究会を創立すべく、まづ上田を中心にした東信地方に、「この考えから本部が幹旋役となり、東信千曲教育研究会創立の世話人会が開催されたことは既に会報No. 58に記載されたところであるが、去る8月10日午後1時より母校に於てその創立總會が開かれた。その模様は次の通り。

出席者、25名

母校職員10名傍聴

(1) 経過報告

創立世話人会を代表して桜井吉利氏(蚕6)の経過報告。

(2) 会則及び予算の審議

(原案通り可決)

東信千曲教育研究会会則

- 第1条 この会を東信千曲教育研究会と呼ぶ事務所を信州大学繊維学部内千曲会館におく
- 第2条 この会は教育の発展を図りあわせて会員相互の親睦を厚くすることを目的とする
- 第3条 この会は前条の目的を達するため次の事業を行う
1. 研究会 講演会の開催
 2. その他目的を達成するに必要と認めた事項
- 第4条 この会は千曲会員にして上小南北佐久地区高中小学校に勤務する者をもって会員とする
- 第5条 この会に次の役員を置く
1. 幹事長 1名
 2. 副幹事長 2名
 3. 幹事 若干名
- 第6条 役員は次のとおりとする
1. 幹事長はこの会を代表し会務を統理する
 2. 副幹事長は幹事長を補佐し幹事長事故あるときはこれを代理する
 3. 幹事は会務を分掌し運営にあたる
- 第7条 役員は總會において選出しその任期は1年とする
- 第8条 總會は毎年1月に開き次の事項を行う。たゞし必要に応じ臨時總會を開くことができる
1. 研究会又は講演会の開催
 2. 予算決算の承認その他必要事項

第9条・第10条・会費及会計(省略)

(3) 役員選挙

選衡委員会を作り一任となる。

以上で創立總會を終り、講堂に於て約1時間30分に及ぶお茶の水女子大学々長嶋山政道博士の「ソ連の新動向と、日ソ交渉について」の講演会を行った。会員の外に母校職員、学生一般と約300人の聴講者を集めて、講演の内容と盛会であったことは創立總會に意義あらしめたと喜ぶものである。今後益々当研究会が発展して目的を充分達成されるよう、会員諸氏の御健闘と共に祈る次第である。(木藤記)

「ファウスト」的衝動

野 村 慎

だいぶ以前のことでありますが、1949年にゲーテの生誕200周年を記念して、いろいろ主催が行われ、記念出版物もずいぶん発行されましたが、その時に私もすっかりゲーテに傾倒してしまつたものです。それ以来今もつて、ゲーテを折にふれて持ち出しては読んでいるのですが、今から200年前に生れたこの詩人の言葉は、ともすると意情になり、現実の生活に悲哀を感じそうになる私たちに大きな刺激を与えてくれ、新しい力を内部にわき起させてくれます。

ゲーテが友人にあてた手紙の一部を引用してみましよう。「われわれは、何物かたらんことを望むのでなく一切者たらんことを望まなければならない。そして特に疲れた精神や肉体を要求する以上に静止したり休息したりしてはならない」この手紙にみられるように、シュトラースブルクに来て半年もたないうちに早くもゲーテは、ファウスト的な衝動を感じていたのでした。その大学でゲーテは専攻の法律学のほかに、自然科学や医学特に産科や臨床の講義にも出席して一切を学んだと云つてよい程、広い分野にわたり研究したのでした。彼は一切者たらんことを望んでいたのです。

はじめからゲーテを持ち出してしまつて恐れ入るのですが現在の私達の身近な問題に当面する毎に、私はこの言葉を思い起すのです。会報第57号で篠原昭氏は「繊維と云う一つの小さな敷の中で育ち、そのまま世の中へ出しても、すぐ何とか見えそうに見えるが少し深く探つてみると何も知らない。これが少くも我々一般に共通した欠点であつたのです」と云つておられますが、まさにうがつた言葉と云えましよう。毎年、新しい卒業生を社会に送つている繊維学部の就職状況は、他学部のそれと比べて、優位にあるとはいへ、ひとたび社会に出て一人立ちした場合に、自己の底の浅さに悲しみをおぼえるのは、私一人ではないでしょう。よく聞かれる言葉ですが「専ら出身にしては珍らしく博学だ」と云つたようなことも思わず耳を被いたくなるのですが、このことを事実として受け入れなければならないのは悲しいことです。もう一度深く反省しなければならないものと思います。

最初に引用しましたゲーテの「一切者たらんことを望まなければならない」とまでゆかなくとも、少くとも繊維という小さな分野にばかり固執せず、もつと広い視野をもちたいものだと思うわけです。それは恰度、梯子を一段づつ、確実に登つていくことにも似ていると思います自分が高くなるにつれて、視野がそれだけ広くなつてゆくものだからです。

8月28日は詩人の生まれた日ですが、彼のファウスト的な衝動をもう一度ふり返つてみて感じたまゝを書きました。

(承36回)

蚕糸・繊維化学の最近の研究

……… 学術雑誌よりの抄録紹介 ……

蚕 糸 学

蓖麻蚕雌蛾誘引腺の誘引物質揮散過程について

竹田 寛, 日昆信越支部講演, 8月 (1956)

誘引腺の誘引物質揮散に関しては家蚕の誘引腺についての組織学的研究があるので、他の絹糸虫については全く行われていない。しかも、家蚕誘引腺の誘引物質揮散に関しても従来2つの説がある。即ち、誘引腺のいわゆる発香突起通過説(宮原1901, 筋内 1901, 林, 伊藤1933)といわゆるキチン崩壊層通過説(伊東1914~15)である。著者は、家蚕、天蚕、柞蚕、樗蚕及び蓖麻蚕等について誘引腺の誘引物質揮散過程に関して組織学的方法と共に電子顕微鏡を用いて研究を行った。

この研究結果から、蓖麻蚕雌蛾の誘引腺は家蚕、樗蚕と同様に誘引腺にキチン突起があり、誘引物質はこのキチン突起を通過して揮散されることを明らかにした。特に蓖麻蚕雌蛾の誘引腺には腺細胞からキチン突起に通ずる導管状の管が明らかに認められ、分泌顆粒と考えられる物質がキチン突起に向って移動する状態が認められる。

これ等の事実から誘引腺にキチン突起を有するものは、このキチン突起を通じて誘引物質の揮散が行われるものであると考へ、これをキチン突起通過型とした。

天蚕及び柞蚕の誘引腺にはキチン突起が認められず分泌顆粒と認められる物質がキチン層に移行すると、キチン層に崩壊部が生じこの崩壊部から誘引物質が揮散されることが認められる。この型をキチン崩壊部通過型とした。要するに数種絹糸虫雌蛾誘引腺の誘引物質揮散過程は次のように分類される。

- (1) キチン突起通過型………家蚕, 樗蚕, 蓖麻蚕
- (2) キチン崩壊部通過型………天蚕, 柞蚕 (竹田)

天 蚕 蛹 の 夏 眠

山崎 寿・西村国男・山田たけお, 日生態会誌,
6 (1), 8-9 (1956)

天蚕の発蛾には2つの山(7月下~8月上; 9月下)がある第1の山の来る直前の蛹体は、成虫体の完成されたものから未分化のものまで種々の段階のものを混互する。これを25°Cに保護すると1部は成虫分化に進み(非夏眠蛹)、他のものは分化が停止している(夏眠蛹)。有明産と茨城・栃木産の天蚕蛹を比較すると前者には明らかに夏眠蛹が少ないことが認められる。これは休眠蛹から羽化した蛾の交尾、産卵は9~10月であるので、寒冷地ではそれが好条件下で行われず、また胚子の発育も円滑に行われないので、休眠性蛹の系統が失われていく結果と解釈しうる。(小山)

織 維 化 学

精練羊毛及び羊毛トップ中の脂肪質の定量

T. Green, R. P. Harker and

F. O. Howitt: J. Text. Inst. 47, 110 (1956)

精練羊毛, カードスライバー及びトップ等の残脂量, 石鹼分, 遊離脂肪酸の定量をエーテル, エタノール, メタノール・ベンゼン(3:2)混合物及び塩化メチレンを用いて比較検討し、更にソックスレー抽出法と Wool Industries Research Associationの塩化メチレンを用いる迅速抽出法による結果を比較した。その結果を要約すれば次の通りである。

- (1) 70% R. H. で給湿した羊毛の方が絶対乾燥したものよりも抽出され易い。
- (2) コーミングオイルのような油はエーテル或は塩化メチレンでよく抽出される。
- (3) エーテル或は塩化メチレンによる抽出は脂肪量の正確な値を示さないしエーテル次にアルコール抽出も石鹼分の正確な値を示さない。
- (4) エタノール抽出はエーテル-エタノール抽出と異なり同様な結果をうる。
- (5) 迅速抽出とエーテル抽出とは全抽出量においてかなり一致する。
- (6) 羊毛中の脂肪質の完全にして精確な分析はベンゼン-メタノール混合物によるのが最もよい。石鹼分及び遊離脂肪酸は常法により、全抽出量からこれら2者を差引けばグリース量となる。(清水)

羊毛と混合している蛋白人透繊維の化学的定量法

E. Druce: J. Text. Inst.,

47, T. 512 (1956)

羊毛に混合している蛋白人織アーデイル(落花生蚕白系)ファイブロン(カゼイン系)及びピカラを定量するには先づ3%過酢酸を用いて常温で1昼夜酸化し所謂酸化羊毛にし、これを0.1N. NaOHで温処理(沸騰水中)すれば羊毛は完全に溶解される。この際蛋白人織も多少溶解されるが、それ自身の溶解性を盲検して補正すればよい。(清水)

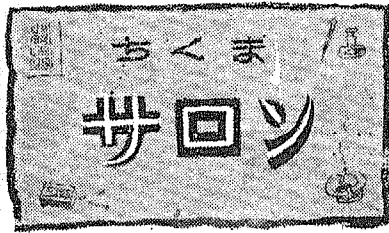
ポリエチレンのメチル基の定量について

E. J. Slowinski, H. Walter, R. L. Miller,

J. Poly. sci. 19, 353 (1956)

ポリエチレンの理想的分子形態は重合度約30,000で分子末端がメチル基になっているためメチル基は非常に少いとされていた。しかし実際には分子は枝分れしてメチル基は0~3%存在する事が解つた。その方法は既知の炭素数を有する飽和炭化水素(C₂₀H₄₄, C₂₈H₅₈, C₃₈H₇₈等で尚、その合成法についても記載してある。)のスペクトロメーターによる標準曲線を描き、メチル基及びメチレン基の吸収強度及び比に関係ある数式を用いて計算する事ができる。

(清水)



記念事業と世の景況

石倉新十郎

創立50周年が近づき、記念事業案が審議されるようになりました。時のたつのは早いもの、創立当時のことを思へばもう夢のような古い昔となりました。其頃教職員で一番若かつた私が今ではもう眼は愈々近く耳は益々遠くなる筈です。え！当時の同僚でなお生き残っている者が二三ありますが、会うと思へば会へるだけ、友の老人振りを見てわが身のあわれを省るだけだろう。

50周年記念事業案を誌上でみると、何れも前途発展を画策したもので、気の勇み立つ思ひがするが、さていづれも資金の難患を背負いこんだものばかり。時期の回り合わせが困つたものと思はれるが、どうかしら。

開校式の時は幸にも世間の景況がよいときで、当時は小さな町でしかない上田でも、協賛会ができて援助があり、文部省から支給された資金だけの催しであつたが、地方では珍らしい盛饗で人を驚かせたものでした。

其後20周年記念祝賀の案が卒業生側から提出されたがこの年がちょうど世間一般の不況時で教授会の意見が調はず、簡単に挙行する説と延期廃止説とで結果は延期となり、25周年祝賀が実現されたのでした。

よく考へてみると25周年の時と今度の50周年の時では学校の事情も記念の意義も変つていのではないのでしょうか。25周年では学校が同一であり、卒業生が沢山社会に出て目出たいといふ単純のものでした。今度の50周年は学校が変身して内容が全々異つてしまいましたし、卒業生も新旧では思想的に大差ができて居て目出度い意味が変つていと思ひます。

前に同じことは上田の地に出発したこと将来に向つて発展を望むことだけでしよう。ですから記念事業として原案の三件は何れも適当と思ひます。然し時期が遅悪くも製糸界は渋い顔、紡織界の笑顔はもう過ぎてしまい、人織界はまだ笑顔までになつていないようではないですか。だと言つて55周年記念では区切りになりません。だからとにかく50周年記念は断行することゝして、記念事業の実行方をよく考へて頂くことですねえ。まあ出来る限り資金獲得に努力するとしても、委員方の予想で凡そどの位確実か見当はつくでしょう。一気に仕上げようとしなくて5個年計画という風に少し気長がに実行完成を期することにするのはいかがですか。そして3項のうち私の考へでは第3を最初の目標とし、次は第2最後に第1とするのが取るべき順序かと思ひます。理由は将来の発展に最も直接的であり有効と思うものを先にする意味であります。

老人は出社場らないで、聞かれたら答へる位にし、万事控へ目にする方が品がよく、人に嫌はれないものだとは知つていますが、もう先がないと思うと、つい行先の良かれかしと願う余り差し出口が飛び出します。うるさい蠅と思つて頂きましよう。

----- 温い心の日記より

狂 悟

経営の失敗が、市場全体の信用を失墜させた、と云ふ自責の念に駆られ、公私共に、特に社内でも、一切の送別会をお断りし、ひたすら謹慎の日を送つて居たが、K社のT社長、T商店のS社長とは、年来格別の親交を受け、わが社の苦境に際しても、先方から商品の手形売りを申込んで、係りつ者を憐てさしたほど温い心の持主だ。「今晚話さう」と電話が来た、固く辞退すると、「あんたは軽いから二人で自動車まで運んで行くよ。他言はしないから……」とのことだつたので、快く受けた。女は一切呼ばずに、ゆつくり水入らずで懇談しようとの条件づきだ。T氏は当時健康を害して、一滴

も飲めず、S氏は一寸嘗めても真赤になつて正座に堪へない程珍らしい下戸だ。客膳が二つある。不思議に思つて居ると多年生糸業者と呼ばれた桃君が「今晚は…」と襖を開けて、にじり出て来た。私は半分以上も、金融機関や取引先、従業員、親会社などに「済みません」と繰返して、絶対に自己を殺して来たのだが、その晩は何の遠慮もなく、始めて真相を暴露し、殆ど一人でウイスキーを飲み込んだ。何時の間にかマダムも来席、私の体を心配して、桃君に注意した様だつたが、ウイスキーのお酌は深更まで続いた。後で知つたことだが、桃君は20年のプロ生活もきれいに洗つて、近く正式に結婚するので、私と一所に送別会を開いて貰つたのだつた。人間5人が温い心と心を触れ合はせての快談、当時の私の境遇としては、夢想だにしなかつた嬉しさだ12時も疾うに過ぎて、ウイスキーの補充も尽きる頃、私はマダムに覗と紙を頼んで「桃君を讀ふ」と言ふ様な長歌(らしい)を、自己流の方葉假名で書いた。幾月か過ぎて病床に生死の境を彷徨つて居る時、「これでは讀めない、振假名をつけて下さい」と、返つて来た、その時多少修正はしたが、日記帳に残つているのが、次の様なものだ。

桃 君 讀

をみなあり、桃君とぞ告る たなびく
霞の 花の朝 い深く澄める 月の夕べ
雨のひねもす 雪の夜半 形の影とひた
寄つて 時を離れて 浅酌低唱 丹波路
に松茸を探き 伊勢の海に 真珠を覗つ
夕ざれば 須磨の松籬 胸に寄え 秋来
りなば 有馬の温泉 疲を慰む 現世の
其き苦惱を 顔見世の 典雅に解しき
東甕の 華麗に息ふ 天かけし外つ園行
きの 吾が首に 神符を献げて はるか
なる前途を禱り 帰り来を 羽田に迎へ
声をあげし 障はりなきを 祝うぐ 敗
れて吾れ 病床に日あり 限りなき 至
情せちに 想ほゆる 憂へをつむむ に
こやなる あの顔容に 幸ひ永遠なれ

反 歌

よく似たる後姿を街に見て相会はぬ日
を指折り数へぬしめやかに時雨の過ぎ
る音聞ゆ有馬は寂し君とあれども
(糸8回)

一 筆 啓 上

高 木 春 郎

私は学生時代サッカーに熱中し体は相当鍛えてあり病気にはおよそ縁がないと思つていましたが、昨夏夏いがけなくも結核菌にとりつかれ「あの野郎でも病気になることがある」というわけで同僚間に衛生観念を向上させるのに大変貢献しましたが、私自身にとつても色々考える大変有意義な機会でありました。最近流行の化学療法をやつたのですが一ヶ月程でレントゲンの曇りはほとんど消え初期症状に対するストマイの偉力には感歎させられこれを発見した科学者に大いに感謝したわけです。そんなことを考えている内に私自身も科学者のはしくれてあることに今更驚きいささか決意を新にすると共に今後30年間御世話になるであらう学部のことが大変気掛りになつて参りました。

元来私は同窓精神薄弱で大学卒業以来10年以上経ちますが一度も同窓会費を収めたことはなく、過日も山に遊びにきて昔話に華を咲かせて帰つた級友から「帰京後早々職場の幹事から同窓会費を徴収された。地の利を得たる貴兄は幸なる哉」等と手紙を貰つてニタニタ気をよくしている様なわけで話にならぬかもしれませんが、しかしそんな私であつても私の母校が最近隆々と栄えている様子を見るのは非常にうれしいことでもあります。ましてこの駄文をお読み下さつている各位は私の何十倍も母校愛に燃えて居られることは間違ないと思います。

さて各位の母校、私にとりましては過去7年将来30年の職場である信大繊維学部は此所で私が喋々申すまでもなく蚕専から織専そして信大と変り設備も次第に充実し健在であることに間違ありませんが、しかし過去四十何年間の各時代の世間の評価といった様なものを考えてみると決して向上してきているとは言えないばかりか、むしろ下向のカーブをとつている様に思われます。蚕糸業の衰退も原因の一つでしょう。学校の増えたことにもよるでしょう。また最近青年が大都市に憧れ、私大などの評価が高くなつてきたことも全般的傾向でしょう。しかし

同じ信大の中の工学部や農学部も大部下にみておりましたが、受験者や就職率からみても年々我々の学部との差が小さくなつてきているように思います。また昔から肩を並べていた群大工学部(旧桐生高工)と較べてみても何だかこちらの方が見劣りしてなりません。

現在当学部の学生は大変真面目です。私自身の学生時代と比較して驚異に思う位です。しかし少し深くつき合つてみると青年にあるべき々希望々といつたものが非常に薄弱のように感じるのは私だけではないようです。我々教官に大半の責任があるかもしれません。しかし根本的に学部の在り方について検討を加える必要があると考えている教官が少なくないようです。戦後10年時代は大きく変化し工場はオートメーション化され、品質管理が行われ、原子力も実用に供せられようとしています。養蚕、製糸、紡織、織化の各学問にも共通の問題がどんどん増えてきています。今迄のようなセグシオナリズム的な行き方も限界にきている様に感じますが、これは単に専門学校から大学に切り代つた為ばかりではないように思われます。大学も大きな時代の動きと共に改変してゆくのでなければ発展は望めないと思います。

近々我が学部も50周年を迎えるのでこの記念事業として千曲会で何か大々的の業事をやられる由ですが、学部の現況を検討され将来の発展へプラスになるような面へ主力を注いで戴き度いと思ひます。すでに千曲会内ではかなり具体的な意見それも学部の将来の為になるような意見が出て色々議論をされているようで将来恩恵を受けるであらう我々として感謝すべき事と思ひます。しかし未だに学部当局側と打合をしたという話を聞かないのですがこの点少々意外に思ふ次第です。なる程学部内にも有力な千曲会員も大勢居りますが、少くも形式的には学校側の代表ではないし、また實質上も繊維化学や教養部の意向は出にくいと思ひます。私の親父も一人だけの弟も本校の卒業生ですし、それに叔父が3人義兄弟が2人千曲会正会員で居ります。もう少し遠い関係を数えたら足の指でも間に合はない位になるかと思ひます。しかし少くも私

に一番関係のある例えば私の嫁という様なことで親父や叔父がいくら集つて相談しても、決めた後で日取は何日にするか誰を呼ぶか等ということだけで相談にあづかるのでは少々時代が異うように思ひます。

千曲会のことは自分には全然無関係と考へている様に見受られる一般教官(賛助会員)にも一反省あつてもよいと思ひし、また千曲会の運営方法にも一工夫あつてもよさうに思ひます。(少くも学部の現在や将来に關係ある問題については) (製糸学科教官)

第 2 回

?これは何でしょう?

先日、東京のある大学へいつている写真マニアのK君が帰つてきて「帰路、日光に寄り珍しい彫刻を見たので写真におさめてきたよ」といつて私に1枚の写真を見せてくれた。この写真はその1枚であつたが、どうも私がみるところ、日光のものではないらしい。「君、こんな彫刻は東照宮にはないはずだよ」と私がいうとK君は、笑いながら、「いや、これは東照宮にはないけど、東照宮に〇〇のためには、ぜひ〇〇なものさ、これを日本で知らない人はないよ」と言葉をにぞした。

さて一体これは何でしょう?

(出題 秋蜻蛉)

解答締切、10月15日、正解者多数の場合は抽せんの上、3名に薄謝を呈す。送先千曲会報編集部「これは何でしょう」係。出題歓迎薄謝呈上。



第1回クイズ解答…たばこ「いこい」の巻紙の一部。解答者12名。全員正解。抽せんの結果、下記の方が当選されました。

小林 陽様 蒲生俊興様
滝沢達夫様

以上の方には賞品を贈呈いたしました

酒 談 義

和田 晋

最近の様に涼しくなつて来ますとビールの時期も過ぎて燗酒を欲しくなりますが一寸ビールの飲み方を御紹介しておきましょう。

吾が国で飲まれてゐるビールは大部分が淡色白もので黒ビールはわずかです。従つてコップは色付はさけるべきで無色のコップがよい事になります。そしてビールをコップに注ぐ場合特に気を使つて静かに泡立を防ぐ様に注ぐ人がありますがこれは全然誤りです。良質のビールは泡立ちと泡持ちを特に尊重するからです。スタンドに於ける生ビールは泡が多すぎでは量が不足して客から文句が出ますから、泡をつけるにも限度がありますが、燗酒は其の懸念は不要です。コップにはかなり泡が立つ様に注ぎます、そして泡と共に液体のビールを大口に呑み下すのが麦酒の本筋のみ方です。清酒は少しづつ舌の上で其の滋味を味わいますが、麦酒の味は苦味や瓦斯の爽快な刺激が多量に咽喉を通る時に本当に味われるものです。

それから追ひ注ぎと言いますかコップに残つている上に注ぎ足すことも避け度いもので客を欲待する積りで、少し呑みはずと次ぎ次ぎと注ぐのは好ましくありません、全部呑み終つたコップへ先に申しました様に泡を立て、注ぐ可きです。

新聞で見ると最近麦酒の本場ドイツから麦酒が少し輸入されるそうです。これを飲んで「矢張り本場の麦酒はうまいこつちのものは及ばんね」等と通ぶるのはおひかえ下さい。ビール屋の背を持つ訳ではありませんが、吾国の麦酒は世界水準に負けないもので、船底でゆられて暑い印度洋を越して来たものよりこちらの方がうまい筈です。

× × ×

不老長寿は大昔から此の世の人々の理想であつたのですが、最近健康体は肝臓を大切にすることが第一と言われる様になりました。そして酒と肝臓の関係もまた注目の的になりこれに関し専門の医者が研究に実験に努力をした訳ですが其の内容をのぞいて見ましょう。

昔から酒呑みはまづ肝臓を侵されると言われています。身体の中で酒と最も烈しく戦うのは肝臓だからです。一体口から入れたものは腸から吸収されると、どんなものでも全て肝臓を通る。いわば関所であつて、全身をまわる有害なものはそこに食い止めて化学的に分解してしまふ。アルコールは殺菌力が強いからこれが腸から吸収されて其のまゝ全身を廻つてはたまりません。肝臓では早速捕へてアルコールの有害な手をもぎとる訳です。所がこの肝臓は中々強いものですが酷使すると疲労して来る。このすきをねらつてどこかに落ちつき度いと体中うろろしている脂肪が肝臓に座り込みを始めます。

所謂脂肪肝です。そして肝臓を占領して用が無くなると潰散しその後が別のものになり硬くなり用をなさなくなる。これが肝硬変症です。これにならない様にするには脂肪をたまらない様にすればよいので、研究の結果脂肪を自分の方にひきつけて肝臓に集らない様な物質(脂肪親和性物質)を発見したのです。これを与えるとアルコールを大量に飲ませても其の動物の肝臓には脂肪がたまらない。そしてこれ等は野菜ではネギやニラ肉や魚や卵の内にもある事が解つたのです。

又或る医者は毎日酒を飲んだら肝臓がどうなるか調べて見たいと思ひ人間に実験も出来ず鼠に使つた。体重から割出して人間なら1升当る酒を毎日々々鼠に飲ませ続ける事2年、さて殺して肝臓を検査すると何事もなかつたのです。ところが鼠のなかには胃腸を悪くしてえさをあまり食わないのがあり、これを調べて見ると肝臓に病変がある。こうしてこの医者は酒が肝臓に悪いのではなく物を食わないのが発病の原因だとわかつたのです。又脂肪親和性物質をえさから除いて鼠に与へ同時に毎日アルコールを飲ませた所果して肝硬変症になつた。ところがアルコールのかわりに砂糖を与へてカロリーを等しくとらせ前と同じえさを与へた所やはり肝硬変症になつたのです。

この様にして酒の肝臓に対する害は実は酒が直接に有害なのではなく、酒のみによくある食物を一所に食わない事にあつたのです。脂肪親和性物質の不足が真の原因であつて、魚よし肉よし卵よしでこれらをふんだんに食へば酒恐るる足らずの結論になりました。ウニ塩辛をなめて酒を飲むをよしとして、料理を酒と一緒に食うのは野菜として来た風習は棚上げ

すべき事となつた訳です。

× × ×

お酒は楽しみに飲むばかりでなく精力増加用として利用されています。御寝間の酒としてもうまく用いる事が夫婦の情愛を一層濃くしてきわめて効果的であります。この酒は中国の様子に古来から研究されている特殊な調合によるものがあります。

五加皮酒 五加皮の皮を酒で煮たものを使用し強壯薬酒に利用する。中国の大人は特に愛飲すると言われます。出来上りの味が大切で、これは作り乍ら減減を見ます。

五味子酒 チョウセンゴミシを入れた酒で滋養価タップリ、強壯收斂、鎮咳の効ありとされています。

蝮酒は皆さん御存知の通りであります、其の他洋酒でペパーミント、キユラソー、チェリブランデーなどいづれも甘味が強くて女性にも口当りがよいと共に、甘味の為めに量を過ぎない様にしてゐるのは御寝間の酒の目的に叶つています。元来酒の中に含まれているエチルアルコールは麻酔剤の1種でこれを用いると中枢神経系統に存在する制止作用を除くから意識的に愉快な感情となり身体的に活動が盛んになつて新陳代謝が昂進するものなのです。特に苦勞をして薬酒を作らなくとも、男は焼酎か酒八勺、女は其の半量に砂糖を沢山入れ、レモンの輪切れを二三片入れたものを寝る前に用いても適当なかつ経済的な昂奮剤です。

但し酒も度を過ぎると反つて其の作用を減じ用をなさなくなつた等御経験済みの事と思ひます。酒は毒にも薬にもなると言ひますが元来酒には何も罪のないもので、むしろこれを用いる人間の方に罪ありと言えましよう。

飲まなければしやべれない、飲んだ勢いでやつける等は正に酒の悪用です。昨夜の大活躍は今朝になつてすつかり忘れた様な顔をして飲み過ぎてつい失礼をしましたと頭を下げられると怒る訳にもいかなない等は酒の御愛敬かも知れませぬ。酒は憂を払う玉簪とも言われよきに付け悪きに付け持ち出されるもので同じ飲むなら効果よろしき様、そしてうまい味を味い乍ら飲みたいものです。書けば未だ種も尽きませんがこゝらで一服いやーパイという事でペンをおきます。

(糸12和田竜酒造KK社長)

特別活動資金について

特別活動資金募集については各支会長始め会員諸兄弟の絶大な御理解と御援助により遂次成果を挙げ毎号発表してまいりましたが、その後下記の如く御醸出がありましたので厚く御礼申し上げます。就いては御申越ない方に申し上げますが近く職業幹事委員の会議を催しこの資金をもって本格的に活動を開始する段取になつておまして、全委員会へ計画提出の都合もありますので既に申し上げてありますように分割払でも結構ですから何分至急に御醸出の程をお願い申し上げます。

特別活動資金御寄附者

(9月10日現在)

金300円

東 正 夫(蚕 23)
堀 内 彬 明(" 33)
大 井 秀 夫(" 36)
長 谷 川 聖 人(")
佐 藤 大 金(系 5)
大 島 崎 定 雄(" 19)
水 出 通 昭 典(蚕 36)
笠 井 出 通 男(" 37)
外 山 井 忠 光(系大 2)
小 松 善 計 一(" 6)
山 野 井 文 夫(蚕 専)
松 上 原 純 之 函(蚕 別 2)
山 浦 友 樹(蚕 31)
原 田 まさ じ(教養 6)
山 浦 和 水(蚕 35)

金1200円

高 馬 一 郎(系 17)
小 林 清 志(")
太 田 良 信(")
千 葉 達 人(" 18)
小 林 進(" 20)

金900円

石 井 光 一(蚕 30)

金600円

小 幡 昇(紡 11)
塚 田 和 磨(系 25)
尾 崎 孔(")
植 田 爽(紡 17)

金500円

的 場 小 六(系 6)
西 井 茂 雄(" 26)
菊 地 六 郎(" 27)
山 本 孝 三(旧 職)

金400円

目 崎 正 夫(蚕 28)

金300円

松 本 光 夫(" 35)
渡 辺 敬 一 郎(" 30)
二 森 光 雄(" 35)
荒 井 井 保(" 31)
金 加 藤 正 男(紡 21)
岩 崎 俊 男(化 2)

会 費 領 収 (9月10日現在)

未納会費納入者

金600円

門 田 勇(紡 15)

金500円

福 地 進(蚕 20)

小 平 光 雄(系 13)

橋 本 広 宏(蚕 6)

金400円

羽 重 次 郎(系 32)

北 山 宏(化大 2)

遠 村 正 宏(蚕 20)

北 沢 茂 樹(紡 16)

小 幡 昇(" 19)

金300円

山 岸 啓 男(紡 24)

金200円

高 川 千 三 郎(蚕 20)

竹 内 好 武(" 23)

堀 内 彬 明(" 33)

大 井 秀 夫(" 36)

長 谷 川 聖 人(")

佐 藤 大 金(系 5)

大 島 崎 定 雄(系 19)

水 出 通 昭 典(" 35)

笠 井 出 通 男(" 37)

外 山 井 忠 光(系大 2)

野 山 井 善 文 夫(蚕 専)

松 上 原 純 之 函(")

山 浦 友 樹(")

石 小 沢 井 保 謙 三(系 11)

大 月 敬 造(農 2)

大 野 夫 獎(農 4)

加 藤 野 田 厚(蚕大 2)

河 野 田 俊 吾(系 10)

小 山 池 川 孝 昌(蚕 17)

小 白 清 水 晃(化 9)

清 関 高 木 順 信 邦(蚕 15)

中 高 田 村 千 秀 泰 敏 和 衛 猪 一 男(系 別 1)

永 永 西 原 船 平 藤 本 木 内 丸 山 村 瀬 浦 山 山 渡

原 船 平 藤 本 木 内 丸 山 村 瀬 浦 山 山 渡

原 船 平 藤 本 木 内 丸 山 村 瀬 浦 山 山 渡

原 船 平 藤 本 木 内 丸 山 村 瀬 浦 山 山 渡

原 船 平 藤 本 木 内 丸 山 村 瀬 浦 山 山 渡

原 船 平 藤 本 木 内 丸 山 村 瀬 浦 山 山 渡

原 船 平 藤 本 木 内 丸 山 村 瀬 浦 山 山 渡

原 船 平 藤 本 木 内 丸 山 村 瀬 浦 山 山 渡

原 船 平 藤 本 木 内 丸 山 村 瀬 浦 山 山 渡

原 船 平 藤 本 木 内 丸 山 村 瀬 浦 山 山 渡

原 船 平 藤 本 木 内 丸 山 村 瀬 浦 山 山 渡

原 船 平 藤 本 木 内 丸 山 村 瀬 浦 山 山 渡

原 船 平 藤 本 木 内 丸 山 村 瀬 浦 山 山 渡

原 船 平 藤 本 木 内 丸 山 村 瀬 浦 山 山 渡

原 船 平 藤 本 木 内 丸 山 村 瀬 浦 山 山 渡

原 船 平 藤 本 木 内 丸 山 村 瀬 浦 山 山 渡

原 船 平 藤 本 木 内 丸 山 村 瀬 浦 山 山 渡

原 船 平 藤 本 木 内 丸 山 村 瀬 浦 山 山 渡

原 船 平 藤 本 木 内 丸 山 村 瀬 浦 山 山 渡

原 船 平 藤 本 木 内 丸 山 村 瀬 浦 山 山 渡

原 船 平 藤 本 木 内 丸 山 村 瀬 浦 山 山 渡

原 船 平 藤 本 木 内 丸 山 村 瀬 浦 山 山 渡

原 船 平 藤 本 木 内 丸 山 村 瀬 浦 山 山 渡

原 船 平 藤 本 木 内 丸 山 村 瀬 浦 山 山 渡

原 船 平 藤 本 木 内 丸 山 村 瀬 浦 山 山 渡

原 船 平 藤 本 木 内 丸 山 村 瀬 浦 山 山 渡

原 船 平 藤 本 木 内 丸 山 村 瀬 浦 山 山 渡

原 船 平 藤 本 木 内 丸 山 村 瀬 浦 山 山 渡

原 船 平 藤 本 木 内 丸 山 村 瀬 浦 山 山 渡

原 船 平 藤 本 木 内 丸 山 村 瀬 浦 山 山 渡

佐藤(利)(春)両先生御退官記念資金中間報告 (9月10日現在)

佐藤利一先生分

金1000円

中 島 茂(蚕 11)

門 平 潤 一 郎(" 9)

橋 本 武 光(")

石 井 光 一(" 30)

白 沢 本 幹(" 5)

山 友 之 函(" 15)

勝 藤 夫(" 9)

山 崎 寿(" 14)

村 文 雄(" 35)

西 村 国 男(" 29)

福 地 村 忠 進(" 20)

奥 村 忠 治(" 23)

荒 木 前 邦 雄(" 12)

宮 東 城 村 功 義(蚕 38)

樋 竹 内 山 善 吾(")

曾 山 直 高(" 4)

塚 半 田 信 二 雄(" 25)

吉 越 繁 夫(系 22)

矢 島 良 夫(蚕 13)

西 沢 大 一(" 23)

佐藤春太郎先生分

金1000円

中 島 茂(蚕 11)

大 泉 英 明(農 2)

門 平 潤 一 郎(蚕 9)

橋 本 武 光(")

石 井 光 一(" 30)

白 沢 本 幹(" 5)

山 友 之 函(" 15)

勝 藤 夫(" 9)

山 崎 寿(" 14)

西 村 国 男(" 29)

中 村 文 雄(" 35)

東 城 村 功 義(" 38)

樋 竹 内 山 善 吾(" 15)

曾 山 直 高(" 4)

塚 半 田 信 二 雄(" 25)

吉 越 繁 夫(系 22)

矢 島 良 夫(蚕 13)

西 沢 大 一(" 23)

田 中 三 夫(農 3)

田 中 三 夫(農 3)

田 中 三 夫(農 3)

田 中 三 夫(農 3)

田 中 三 夫(農 3)

田 中 三 夫(農 3)

田 中 三 夫(農 3)

田 中 三 夫(農 3)

田 中 三 夫(農 3)

田 中 三 夫(農 3)

田 中 三 夫(農 3)

田 中 三 夫(農 3)

田 中 三 夫(農 3)

田 中 三 夫(農 3)

田 中 三 夫(農 3)

田 中 三 夫(農 3)

田 中 三 夫(農 3)

田 中 三 夫(農 3)

田 中 三 夫(農 3)

田 中 三 夫(農 3)

田 中 三 夫(農 3)

田 中 三 夫(農 3)

田 中 三 夫(農 3)

田 中 三 夫(農 3)

田 中 三 夫(農 3)

田 中 三 夫(農 3)

田 中 三 夫(農 3)

田 中 三 夫(農 3)

田 中 三 夫(農 3)

田 中 三 夫(農 3)

田 中 三 夫(農 3)

田 中 三 夫(農 3)

田 中 三 夫(農 3)

“投稿についてのおねがい”
御投稿の際は原稿用紙横書きにて毎月10日(必着)までに編集部に御寄せ下さい。

住 所 移 動

頁 数	氏 名	卒業回数	新 住 所
105	羽田 和介	蚕 36	小諸繭検定所 (小諸市中央通り)
106	森 せつ子	教 5	岩村田電報電話局 (浅間町岩村田)
107	浅田 勝夫	蚕 31	野沢南高校 (野沢町)
107	小池 恭正	" 30	佐久製糸株式会社 (中込町447)
111	小萩 原理広	化 6	長野県上田染色試験場 (上田市西脇)
"	奥野 芳男	系 29	(住) 上田市踏入
114	小坂 森昭子	糸別 1	(住) 上田市川原柳町
"	坂口 光男	学紡 5	上田市立第三中学校 (上田市)
115	諏訪 幾久雄	糸 23	上田公共職業安定所 (上田市)
"	竹内 義広利	学糸 3	上田ガス株式会社 (上田市天神町)
123	桜井 秀雅	農 5	信大繊維学部附属農場
125	甘利 雅人	糸 35	浦里中学校 (浦里村浦野)
132	玉井 和更代	学糸 1	東信製糸所 (小県郡丸子町塩川) (住) 埴科郡戸倉町
133	中沢 幸睦	教 4	(住) 小県郡神川村上堀
137	山崎 裕夫	学紡 3	信濃絹紡株式会社 (小県郡丸子町)
141	松崎 治子	蚕 37	自営 (塩崎村)
"	曲尾 孝雄	教 7	日網製糸株式会社 (篠ノ井町)
146	若林 興成	農 1	柏原農業協同組合 (上水内郡信濃村)
147	上野 孝雄	蚕別 3	蚕種協同組合高水社 (須坂市南横町)
149	富沢 孝雄	農 1	須坂療養所 (須坂市)
153	清水 利男	糸 37	長野県蚕業試験場 (長野市岡田町140)
154	島田 猪一郎	蚕 31	島田医院 (長野市箱清水)
155	中村 正義	学紡 19	長野県庁農地部耕地課
"	中村 盛一	蚕 32	" 経済部蚕糸課
156	西原 昭三	化 3	" 地方労働委員会
158	山口 好雄	糸 33	長野タクシー株式会社 (長野市岡田町)
"	横山 典彦	蚕 35	八十二銀行長野市問御所支店 (長野市問御所)
161	新海 浪男	糸 37	信毎松本本社
161	鈴木 玄久	糸 18	鐘紡松本工場 (松本市島内区)
162	水沢 久成	蚕 37	農林省蚕糸試験場松本支場 (松本市四ツ谷)
163	柳沢 薫	学糸 2	長野県蚕業試験場松本支場 (松本市旭町)
163	浦野 正典	農 2	岡谷公共職業安定所 (岡谷市)
171	内藤 忠男	糸 26	岡谷南部中学校 (岡谷市)
"	丸山 嘉久	蚕 27	岡谷東高校 (岡谷市)
176	宮沢 芳雄	蚕 30	(住) 飯田市錦町2丁目7
181	浅川 茂樹	蚕 22	鐘紡静岡蚕種製造所 (駿東郡裾野町)
184	三輪 貞徳	糸 13	(住) 浜松市安松町244
189	近藤 謙明	蚕 32	平戸橋医院 (西加茂郡猿遠町碎74)
193	橋詰 忠夫	学紡 27	光和紡績名古屋工場 (名古屋市外葎時)
202	日根野 宏	糸 33	若林製糸紡績河瀬工場 (犬土郡川瀬町)
203	茂原 米雄	糸 33	日本レイヨン宇治工場ナイロン技術係
204	野村 正造	糸別 2	三島屋株式会社京都工場 (京都市右京区太秦蘇ヶ森町)
204	翠川 俊彦	学紡 3	全 上
204	矢口 茂人	化 7	室谷染色株式会社 (京都市中京区千本松原)

本 会 日 誌

(8月分)

8月10日(金)本部後援のもとに東信千曲教育研究会(同窓教員の親睦を厚うし教育の発展を図る目的の会)の創立總會開催。別記の如し。

編 集 後 記

○ 先日こんなことがあった。会報の編集当番として山の様に積まれた原稿をこれは面白い、あれは是非サロンに入れよう、編集上のお叱りを受けない様にと迷いながら整理中……突然原稿の山が崩れアツト云う間に下敷き、息も出来ない……ウーン……夢か！机上で数編の原稿がニタニタ笑っていた……夢と現実の差か？

○ 母校創立50周年記念事業の計画について準備委員会が開催されたことは会報 No. 56号に掲載されましたが、これについて多々有益な御意見があるかと思ひます。

千曲会発展のために是非各階層会員諸兄の御意見を「サロン」欄にお寄せ下さるようお願いしております。

秋冷の折柄御自愛の程をお祈りします。

(土屋記)

編集理事 田口亮平、編集総務 小山長雄、編集部員 古平福記 石川博 今井甲子男
木藤半平 中原武 田中茂光 西村晋次 土屋幾雄